



G20 大阪サミットが無事閉幕しました。多数の人々が集まるイベントなどはマスギャザリング (mass gathering) といっただけで集団災害発生リスクと言われていました。また世界各国の要人が集まるサミットではテロなどへの備えも必要です。今回も全国から救急医たちが集められ万全の体制が敷かれたようです。

## 院内防火訓練が開催されました

消防法で決められている年2回の消火・避難訓練が先日開催されましたのでご報告です。

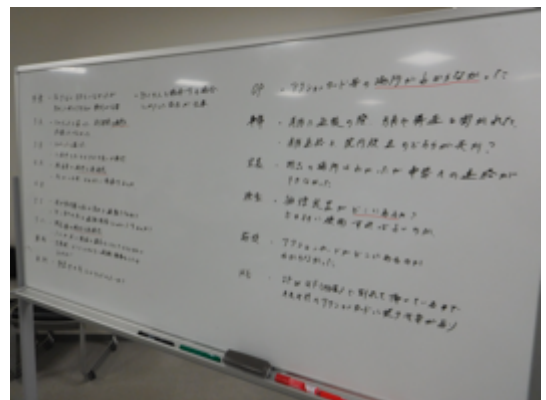
日時: 令和元年6月27日(木)14時半から1時間

参加者: 33名(看護師15、その他コメディカル9、事務6、医師2、院外救急救命士1)

今回は厨房で火災が発生したとの想定で、訓練が行われました。院内放送のあと、各部署ともアクションカードに従い行動しましたが、初めて見るカードの内容に戸惑いながら、全員1階総合受付前ロビーに集まりました。振り返りでは、「『ヘルメットと軍手を着用』と指示があるが、どこにあるかわからなかった」「中央階段しか使用しなかったが非常階段も使ってみるとよかった」などの声がありました。今後も定期的に訓練しますので、まだ参加していない職員の皆様はぜひご参加ください。

### 以下参加者の声です。

- ・ 今回初めて参加して、アクションカードやヘルメットの置いてある位置を確認でき、また看護師の役割について改めて考えることができました。火災発生場所により避難経路も変わってくるので、非常階段の位置など病院の構造を普段から意識しておくことも大切だと感じました。救急外来で患者さんがいた場合、何を優先すべきか瞬時に判断しなければならず、焦ってしまうと思います。定期的に訓練することで少しでも自信をもって対応できると思います。
- ・ 今回は参加人数が少なかったためスムーズに避難ができましたが、実際には多くの患者さんやスタッフがいる中での行動となります。リーダーが冷静に指示を出して安全にみんなを誘導



する必要がありました。また目の前の患者さんのことを優先的に考えたくなりませんが、まず自分の身を守り、自分の安全確保ができた上で行動することが重要だと教えてもらいました。今後はあらゆる可能性を考えつつ訓練を積み重ねることが重要だと思いました。普段から物品の配置を確認し、いざという時に備えたいと思います。

## 書評「自衛隊防災 BOOK」

災害といえば自衛隊、自衛隊といえば災害派遣、というぐらい、自衛隊と災害は切っても切れない関係ですが、この「自衛隊防災 BOOK」なるタイトル、以前から気になっていました。少し迷ってネットでポチリ。読んでみました。やはり面白い、いざという時役に立ちそう、なので書評と称して皆様にご紹介します。

内容は、

- ・ 災害に備えて自衛官が日ごろから心がけていることは？
- ・ 地震発生、まず最初にするとは？
- ・ 身近なものを使ってピンチを切り抜ける方法
- ・ 海、山、川で遭難したときに助かる方法

などなど自衛隊に伝わるノウハウが 100 個紹介されています。いずれも知っていて損はしない内容ばかりです。

例えば

問：地震発生時、街中を歩行中だったら、どんな行動をとる？

答：まず上をみる

解説：看板や窓ガラスなどの落下物から身を守るため、まず上を見るのが正解。下を向いて姿勢を低くするのは危険。どんな状況でも上を確認するクセをつけましょう。

など、思わずへえ〜と唸ってしまう内容が盛りだくさんです。他にも、ズボンで浮き輪を作る方法や寒さから身を守る方法など、サバイバルに役立つような内容もあります。また「自衛官は防水仕様の私服を着ることが多い」「自衛官は自家用車のガソリンを半分以下にはしない」などがホンマかいなという情報も「自衛隊あるある」として紹介されています。自衛隊と防衛省が協力して作成されている「自衛隊防災 BOOK」はマガジンハウスから、定価 1200 円(税別)です。

なお COI はありません。



## 災害対策委員会では、BCP 策定に取り組みます

BCP (Business Continuity Plan) とは、災害などで病院が被害を受けた場合でも、診療や入院機能を継続していく、あるいは中断しても早期復旧を図るために、事前に対応策を準備しておく計画です。災害拠点病院では BCP 策定が義務付けられていますが、災害医療支援病院である当院でも、現在策定に取り組んでいます。

詳細が決まりましたら皆様にもご案内いたしますが、興味ある方は月例の災対委員会で話し合いをしておりますので、どうぞご参加ください。